

クリーンセンターの建替計画の具体化について

【現状と課題】

- ・現クリーンセンターは平成 6 年に稼働を開始し、平成 22 年度から平成 25 年度にかけて延命化工事を実施し、10 年間の延命化を図っている。
- ・災害復興、東京オリンピック・パラリンピックの影響で建設費が高騰していることから平成 30 年 11 月に整備事業の延期を決定した。
- ・稼働期間が長くなるとトラブルのリスクが高まる。
- ・平成 30 年度に実施した精密機能検査では、喫緊の課題は見受けられなかった。
- ・今後の建設費の動向を注視し、事業再開の適正な時期を見極める必要がある。
- ・事業再開後、新施設稼働開始までの事業者選定・建設工事に約 8 年かかる。

【施策の方向性（案）】

○事業再開に向けた調査・検討

- ・参考見積りを徴集し、建設費の動向を注視する。
- ・現クリーンセンターの稼働可能期間を調査し、再開スケジュールを作成する。
- ・建設費と現クリーンセンターの老朽化を考慮し、事業再開時期を検討する。

【参考】次期クリーンセンターの概要

施設名称	市川市クリーンセンター		(仮称) 次期クリーンセンター	
所在地	市川市田尻 1003 番地		市川市田尻 1003 番地	
敷地面積	約 27,000 m ²		約 17,000 m ²	
工期	H2.9～H6.3		—	
事業費	約 253 億円		—	
施設区分	ごみ焼却施設	不燃・粗大ごみ 処理施設	ごみ処理施設	不燃・粗大ごみ 処理施設
処理能力	600t/日 (200t/日×3 基)	75t/5h	396t/日 (132t/日×3 基)	21t/日
処理方式	全連続燃焼式 ストーカ炉	衝撃せん断併用 回転式	全連続燃焼式 ストーカ炉	衝撃せん断併用 回転式
発電	7,300kW	—	約 11,000kW	—
選別種類	—	4 種選別	灰中の磁性物	4 種選別
延命化事業	H22～25 年度 (約 55 億円)		—	

【参考】全国の建設費動向

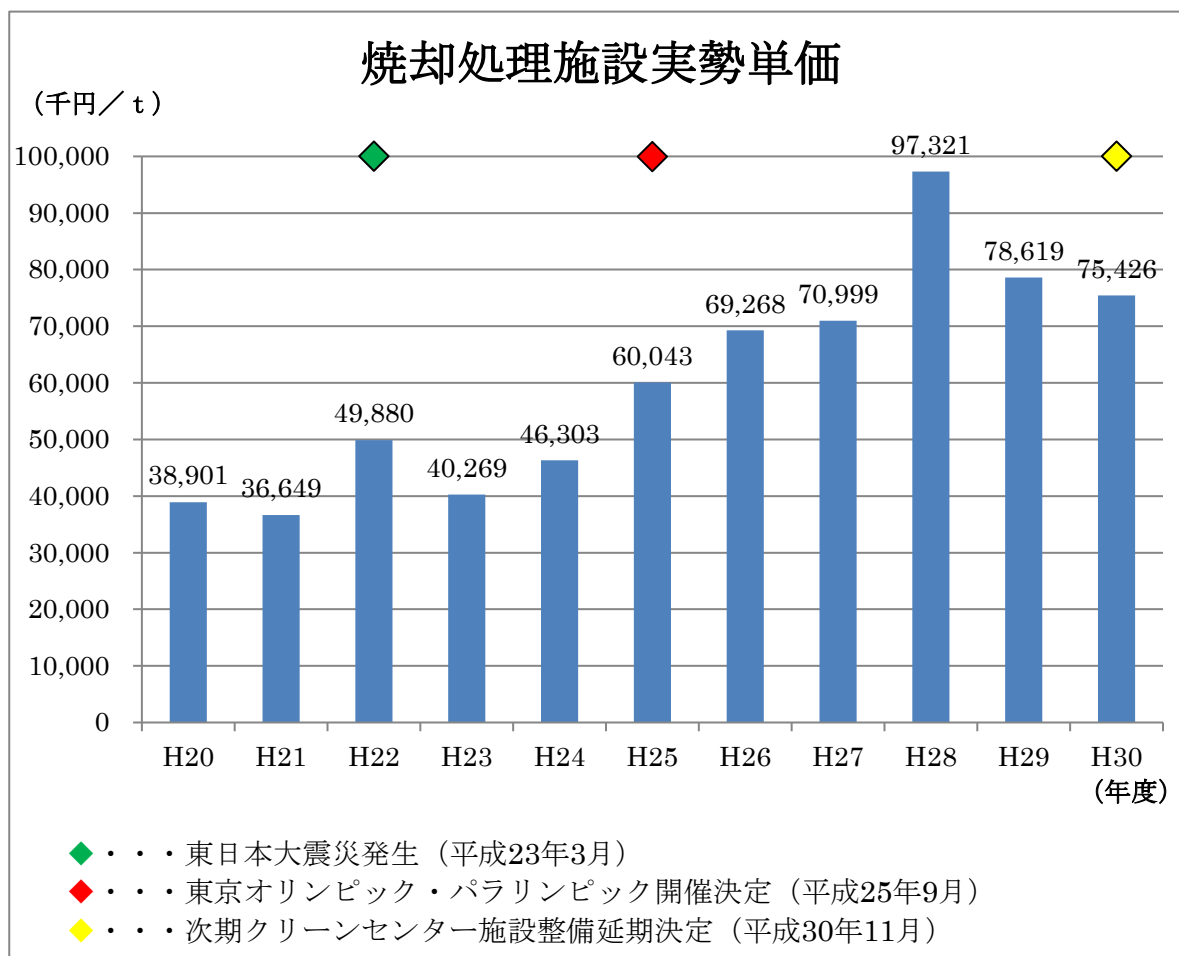


図1 焼却処理施設実勢単価

【参考】次期クリーンセンターの整備スケジュール

表1 クリーンセンター施設整備スケジュール

年度	H26	H27	H28	H29	H30	H31 R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
現施設															
新施設															

次期クリーンセンターについては、H30年度に事業延期を決定し、建設費用の動向を注視していきます。

表2 事業再開後の整備期間

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目
新施設									

事業再開を決定してから新施設が稼働するまで約8年かかります。